

# 斜里町部活動地域移行に関するアンケート調査結果

「少年団やクラブ活動についてのアンケート」

「放課後や休日のスポーツ・文化・芸術活動についてのアンケート」

令和6年10月

斜里町教育委員会

## 【目的】

- ・ 斜里町の児童生徒、保護者及び教職員等の部活動・少年団・地域のクラブ活動等に係る意識や実態、部活動の地域移行に対する考え方等を把握し、今後予定している段階的な部活動地域移行へ向けた取り組みの資料とするためアンケート調査を実施する。

## 【アンケート調査名】

- ・ アンケートは対象により以下の2つの名称で実施した。
  - ★ 「少年団やクラブ活動についてのアンケート」  
(小学生・義務教育学校児童を対象)
  - ★ 「放課後や休日のスポーツ・文化・芸術活動についてのアンケート」  
(小学生・義務教育学校児童以外を対象 ※詳細は次ページ参照)

## 【調査対象】

- ①小学校・義務教育学校の4・5・6年生児童
- ②中学校1・2年生、義務教育学校7・8年生生徒
- ③上記①の児童の保護者
- ④上記②の生徒の保護者

## 【調査方法】

- ・調査方法は、Logoフォームを用いたアンケート調査として実施した。

## 【調査期間】

- ・上記③・④・⑤（保護者及び教職員）  
令和6年7月26日～8月10日
- ・上記①・②（児童生徒）  
令和6年8月（夏季休業終了後～8月30日）

## 【調査結果】

対象	対象者数	回答数	回答率
①小学校・義務教育学校の 4・5・6年生児童	259人	225人	86.9%
②中学校1・2年生、義務教 育学校7・8年生生徒	183人	158人	86.3%
上記①児童の保護者	237人	106人	44.7%
上記②生徒の保護者	160人	92人	57.5%
教職員	97人	58人	59.8%
合 計	936人	639人	68.3%

## 【アンケート結果概要】

### 1. 小学校・前期課程児童生徒

- ・ 回答件数：225件／回答率 86.9%

活動状況等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 少年団や教室等で、スポーツや文化活動をしている児童は全体の約7割</li><li>・ スポーツ系では①ダンス②サッカー③野球の順</li><li>・ 文化系ではジュニアバンド</li><li>・ その他として、習い事は①そろばん②習字③ピアノの順となっている。</li><li>・ 活動日は、「平日のみ」が約5割で「平日と休日の両方」が4～5割</li><li>・ 活動日数は「週2～3日」が3～4割、「週4～5日」「週6～7日」がそれぞれ2～3割</li><li>・ 平日の活動時間は「1～2時間」、休日は「3時間以上」が多い。</li></ul>
活動への意識等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 現在の活動の理由は「上手になりたいから」「楽しいから」「自分がやりたいと言った」が多い。</li></ul>

(小学校・前期課程児童生徒)

今後の活動への意見等

- ・ 現在活動をしている児童について、中学・後期課程へ進学後の活動については「今やっている活動を続けたい」が半数以上を占めているが、「まだわからない」が約3割
- ・ 中学・後期課程での部活動の入部希望は全体の4～5割で、運動系部活希望が約3割、文化系が約1割。「まだわからない」が約4割
- ・ 入りたい部活動については、スポーツ系は①バドミントン②バレーボール③陸上競技で、文化系は①吹奏楽②美術③文化部の順
- ・ 部活動へ期待することは「活動を楽しむこと」「体力・技術を身に付けること」「勝つことや上達することの喜びを知ること」
- ・ 「自分がやってみたい活動が部活動としてなかった場合に、地域クラブで活動したいか」に対しては「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が約6割、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」は約2割

- 何らかのスポーツ・文化・芸術活動をしている割合は高く、習い事の内容は多種にわたっている。
- 中学校・後期課程で部活動を希望しているのは4～5割にとどまり、考え中も約4割となっており、活動のイメージが持てていない可能性もある。
- 中学校・後期課程で部活動を希望する児童のうち、地域クラブの活動への参加については6～7割が肯定的な回答をしている。

## 2. 中学校・後期課程児童生徒

・ 回答件数：158件／回答率 86.3%

### 活動 状況等

- ・ 「学校部活動」が6～7割、学校部活動と少年団等の両方」は約2割。「少年団等」のみは1割以下
- 学校部活動
  - ・ 所属はスポーツ系では①バレーボール②陸上競技・バドミントン③バスケットボールの順。文化系では①吹奏楽部②文化部③美術部の順
  - ・ 活動日は「平日と休日の両方」が8割、「平日」のみが約2割であり、活動日数は「週4～5日」が7割
  - ・ 活動時間は、平日「2～3時間未満」が6～7割と多く、休日は「2時間以上3時間未満」「3時間以上」が共に約4割。「休日には活動がない」は1割
  - ・ 活動時間等に関する「生徒の希望と実態との比較」では、平日、休日についても実態よりも「より短いことを希望」と「より長いことを希望」の両方が増えている。
- 少年団等と部活動両方所属
  - ・ 少年団に加入の競技は①野球・バドミントン②卓球③陸上競技の順、その他として①スキー・スケート②水泳の順
  - ・ 活動日は学校部活動と同傾向だが、活動時間は平日・休日ともに「3時間以上」の割合がより多くなる。
  - ・ 移動は保護者送迎（車）が7割。移動時間は30分以内が約8割、30分以上が約2割

(中学校・後期課程児童生徒)

活動への意識等

○学校部活動

- ・現在の活動の理由は「楽しいから」「上手になりたいから」「友達と活動できるから」が多く、次いで「勝ったり賞をとりたいたから」等
- ・所属してよかったことは「活動が楽しい」「勝つことや上手くなることの喜びを知った」「体力、忍耐力がついた」等
- ・反対に困ったことは「学業との両立」が最も多く、次いで「練習日数や時間が少ない」「生徒や指導者との関係性」等

○少年団等

- ・現在の活動の理由は「専門的な指導が受けられるから」「自分のレベルにあった活動ができるから」等
- ・少年団等に所属してよかったことは「より専門的な指導が受けられること」が多い。
- ・反対に困ったことは「特になし」が多く、次に「活動時間（長い）」「テスト期間中」等



(中学校・後期課程児童生徒)

今後の活動への意見等

○学校部活動生徒

- ・「自分がやってみたい活動が部活動としてなかった場合に、地域クラブで活動したいか」に対しては「学校部活動と同じ種目」の希望が4割、「地域で活動をやりたくない」は1割弱、「特になし」が約4割
- ・地域の少年団等の活動に期待することは「専門的な指導が受けられる」「他校の生徒と友人関係が築ける」「自分にあった活動ができる」等
- ・一方心配なことは「指導内容の違い」「活動場所までの移動」「活動に対する費用」

- 現に部活動に入っている割合が高く、少年団に入っている生徒については、技術の向上や専門的な指導を希望し活動している回答がみられる。
- 休日の地域クラブでの活動参加については、現に部活動等で活動している生徒でも消極的な回答が多くなっている。
- 少年団等の移動手段は保護者による送迎が中心となっており、移行時の不安要素の一つともなっている。

### 3. 小学校・前期課程 保護者

- ・ 回答件数：106件／回答率 44.7%

活動状況等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子どもがスポーツや文化活動をしているのは全体の約7割。うち8～9割が教室や少年団に入っている。</li><li>・ 毎月の負担額（月謝・会費）は「1,001円～3,000円以内」が多く約4割、それを含め3,000円以下で約6割</li></ul>
活動への意識等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 少年団等に入ってよかったことは「子どもの健全育成（体力面、精神面）」「他学年や他校の児童との交流により友達が増えた」「子どもが希望する種目の活動が実施できた」等</li><li>・ 負担に感じていることは「活動場所への送迎」が多い。</li></ul>

今後の活動への意見等

- ・ 中学・後期課程での部活動へ期待することは「活動を楽しむこと」「努力することの大切さを学ぶこと」等
- ・ 部活動地域移行については「よく知っている」「少し知っている」が約7割
- ・ 地域移行への考えは「賛成」「どちらかといえば賛成」が約4割、「どちらかといえば反対」「反対」が約3割、「わからない」が2～3割
- ・ 中学校の部活動が平日のみとなった場合の休日の地域クラブへの参加については「参加させたい」が3～4割、「わからない」が約半数
- ・ 休日に少年団等に参加させたい場合の毎月の負担額は3,000円以下が6～7割、3,001円～5,000円が約3割
- ・ 「参加させたくない」の理由は「活動時間（長い）」「活動場所への送迎」への不安等
- ・ 中学校の部活動を地域クラブが担うことについて、期待することは「子どもが希望する種目の活動の継続」「技術力の向上」「専門的な指導が受けられる」があり、心配することは「担う地域の受け皿があるのか」「指導者の人材不足」となった。

- 子どもの活動経費は月3,000円以下が多数であり、地域クラブへ参加した場合についても同程度の希望となっている。
- 部活動の地域移行についてはある程度認知されているが「少し知っている」が多く、休日の地域クラブ参加の意向は「わからない」が多いこと等から、イメージが十分に持てていないことが考えられる。
- 不安要素は送迎と受け皿・指導者人材の確保である。

#### 4. 中学校・後期課程 保護者

・ 回答件数：92件／回答率 57.5%

##### 活動状況等

・ 子どもが学校部活動または少年団に入っているのは約8～9割、子どもが少年団（のみ）に入っているのは1割に満たない。

##### ○学校部活動

・ 毎月の負担額（月謝・部費等）は「1,000円以内」が多く7～8割、3,000円以下でほぼ100%

##### ○少年団のみ

・ 毎月の負担額（月謝・部費等）は「1,000円以内」が6～7割、3,000円以下で100%となっている。

##### ○部活動と少年団の両方に入っている場合

・ 毎月の負担額（月謝・部費等）は「1,000円以内」が約2割、「1,001円～3,000円以内」が最も多く4割、3,000円以下で約6割、5,000円以上は約2割

・ 未所属についての理由は「子どもが望まなかった」が最も多いが、次いで「やりたい活動が部活動や少年団にない」としている。

活動への  
意識等

○学校部活動

- ・よかったことは「活動が楽しそう」「他学年や他校の児童と交流により友達が増えた」「体力、忍耐力がついた」等
- ・負担に感じたことは「練習日数や時間が少ない」が最も多く、次いで「特になし」「生徒や指導者との関係性」の順となった。

○少年団等のみ

- ・理由は「やりたい種目が学校の部活動にないから」「専門的な指導が受けられるから」
- ・よかったことは「技術力の向上」「勝つことや上手くなることの喜びを感じている」が多い。
- ・困ったことは「活動時間（長い）」「活動場所までの移動」「活動費用」「特になし」が同数。

○部活動と少年団の両方に入っている場合

- ・活動の理由は「子どもの健全育成」が最も多い。

今後の活動への意見等

- ・部活動へ期待することは「活動を楽しむこと」「努力することの大切さを学ぶこと」「体力・技術が向上する」等
- ・部活動の地域移行については「よく知っている」「少し知っている」が8～9割
- ・地域移行への考えは「賛成」「どちらかといえば賛成」が3～4割、「どちらかといえば反対」「反対」も3～4割、「わからない」が3割
- ・中学校の部活動が平日のみとなった場合の参加については「参加させたい」「わからない」がそれぞれ約4割、「参加させたくない」が約2割
- ・休日は少年団等に参加させたい場合の毎月の負担額は「1,000円以内」が約3割、それを含め3,000円以下が約8割、「3,001円～5,000円以内」が1～2割
- ・中学校の部活動を地域クラブが担うことについて、期待することは「子どもが希望する種目の活動の継続」「技術力の向上」「専門的な指導が受けられる」があり、心配することは「指導者の人材不足」「担う地域の受け皿があるのか」「活動までの送迎」等
- ・自身が地域クラブ等の指導者としてかかわることについては、肯定的回答は6件7%であった。

- 子どもの活動経費は部活動のみの場合は1,000円以下と低額になっている。地域クラブの参加を想定した場合は、3,000円までの負担が約6割となっている。
- 部活動の地域移行についてはある程度認知されているが「少し知っている」が多いこと、休日の地域クラブ参加の意向は「わからない」が多いことなどから、イメージが十分に持てていないことも考えられる。
- 部活動に期待されていることは、活動を楽しむことが最も多く、また、部活動でよかったことも活動が楽しそうであること。部活動の地域移行については希望する種目の活動の継続が求められている。
- 不安要素は送迎と受け皿・指導者人材の確保であり、技術の向上を希望する場合等、地域クラブの年齢差について心配する回答もあった。

## 5. 教職員

- ・ 回答件数：58件／回答率 59.8%

### 活動状況 等

- ・ 部活動の指導は「平日と休日の両方」が8～9割で、日数は「週4～5日」が6割と多い。
- ・ 指導時間は、平日は「1時間以上2時間未満」「2時間以上3時間未満」がそれぞれ約半数を占めるが、2時間未満が若干多い。休日は「3時間以上」が5～6割で最も多い。
- ・ 担当する部活動を「専門として指導できる」「専門ではないが指導できる」は5～6割、「専門として指導できない」とした教職員は4～5割となっている。
- ・ 何らかの指導資格を有する教職員は、全体の2割。



活動への  
意識等

- ・部活動指導の負担感については「負担を感じている」が7～8割
- ・負担感の理由は「時間外業務が増えている」「休日に休めない」「教材研究の妨げとなっている」「専門的な指導ができない」等
- ・部活動指導により生じている平日の月の時間外勤務時間は「45時間未満」は約8割、「45時間以上」は約2割
- ・部活動の意義についての考え方は「学校管理下での必要性はあまり感じない」が5～6割、「一定の必要性はあると思うが、地域クラブ等でも教育的な活動は可能」は4～5割となっている。
- ・学校部活動の課題と感ずることは、「多忙により日々の指導ができない場合がある」が多く、次いで「顧問の種目に対する専門的知識や指導技術の不足」となった。
- ・教職員が部活動の指導を行うことについては「時間的、精神的な負担」が最も多く、「必ずしも教師が担う必要のない業務であり、学校部活動は廃止することでもよい」「専門的な指導ができず生徒のニーズに十分にこたえられない」という回答がそれぞれ約5割、「生徒の成長がみられやりがいにつながる」が約3割

今後の活動への意見等

- ・地域移行への考えは「賛成」「どちらかといえば賛成」が約9割、「どちらかといえば反対」「反対」は2%、「わからない」が1割
- ・地域移行に期待することは「教員の負担軽減につながる」が8～9割、次いで「子どもが希望する種目も活動の継続」「専門的な指導が受けられる」
- ・部活動の地域移行に心配することは「担う地域の受け皿があるのか」「責任の所在」「生徒や指導者との人間関係」「指導者の人材不足」「学校との関わりや生徒に関する情報共有の方法」となっている。
- ・自身が地域クラブ等の指導者としてかかわることについては、肯定的回答は約2割で、理由は「生徒の成長がうれしい」「生徒の学校とは違う側面を見ることができる」であり、否定的意見は約8割で、理由は「校務が多忙であるため」が多かった。

- 学校部活動の課題は、指導により時間外勤務や休日勤務が増えること、専門外の指導への負担が大きいということがみられる。
- 部活動により教材研究等の校務に支障が出ているとの状況がみられ、専門外の指導であるという課題については、教職員の負担ということとともに、生徒のニーズに十分にこたえられていないという認識が示されている。
- 部活動の地域移行については賛成が9割であり、期待することは教職員の負担軽減。次いで子どもの活動の継続、専門的な指導が受けられること
- 不安要素は受け皿の確保。地域クラブで指導者として関わることに前向きな回答も得られている。